

地域ネットワークニュース

～平成25年8月の勉強会のお知らせ & 7月の勉強会報告～

第187回 地域ネットワーク勉強会

精神保健相談での相談対応から ～つながることの大切さ～

講師:茨城県精神保健福祉センター 相談員 小原昌之 氏(臨床心理士)

8月30日(金)

午後7時～午後9時
神栖市保健・福祉会館内
参加費無料

茨城県精神保健福祉センターは精神障害者の福祉の増進を図る機関として、相談事業や障害についての啓発事業を実施しています。精神保健福祉相談では精神科医・保健師・精神保健福祉士・心理技術者と、多様な職種が在籍していることを生かし、病気の早期治療と社会参加の促進を図っています。

今回の勉強会では同センターの相談員である小原昌之さんをお招きし、センターが特定相談として取り組んでいる、また、神栖市においても特に社会資源の少ない思春期相談、酒害(アルコール)相談、薬物相談への取り組みや、茨城県内の精神保健に関する相談の入口としての役割、地域の保健・医療機関とつながって継続した相談対応や支援活動をしていく取り組みについてお話しいただきます。



お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 地域福祉推進センター 担当:名雪 電話 0299-93-0294



第186回 地域ネットワーク勉強会報告 7月31日開催<参加者31名>

障害者の就労支援 ～仕事で大切なこと～

講師：社会福祉法人まごころ（成田市）

多機能型事業所ビーアンビシャス施設長 中村輝彦 氏

今回の勉強会では、就労意欲や作業への興味・関心の向上など、障害者の就労支援をするために重要な視点や実践するなかで感じていることをお話頂きました。

中村さんは、企業勤めで得たノウハウやネットワークを活かし、『思ったらすぐ実行』という考えで施設の拡張や事業展開を実施してきました。「仕事をする上で大切な‘チャレンジする気持ち’は健常者も障害者も一緒。チャレンジすることで得られる喜びを分かち合い、福祉という枠にはまらないユニークでクリエイティブな発想で彼らと向かい合っていこうと思っています。」と語られ、開設当初からの理念である「障害者が運営する企業体」へ前進し続けていることを感じました。

また、ビーアンビシャスでは利用者を「社員」と呼んでいます。それは個々それぞれが達成目標と結果、そして評価を受けながら意識を高め、事業所全体で‘企業体である’ことの自覚を持つことに特化しているからであると思います。

‘仕事’をするからには各分野で良質なサービスと品質を提供することを福祉施設としてではなく、『一企業』として心がけ、一人の『プロ』として活躍できるように支援の体制を整備する、と障害者支援の体制においても何のための支援か、何を目標に支援するのか、がはっきりしているように感じられました。

障害者の就労支援もそうですが、地域福祉活動においてもビーアンビシャスのようなユニークでクリエイティブな発想が求められている、と感じた勉強会でした。